インタビュー

ラピュタロボティクス㈱
VP of Business ASRS
営業部長
鈴木 匡嘉 氏

自在型自動倉庫の採用が拡大

100億円規模の受注獲得を目標

ラピュタロボティクス㈱（東京都江東区）は、物流向けロボティクスソリューションを提供するチューリッヒ工科大学発のベンチャー企業。世界最先端の制御技術やAI技術などを活用した次世代クラウドロボティクスプラットフォームの開発やロボットソリューションを提供するなか、同社の自在型自動倉庫「ラピュタASRS（Automated Storage and Retrieval System）」の採用が拡大している。そこで今回、ラピュタASRSの取り組みについて、同社のVP of Business ASRS営業部長の鈴木匡嘉氏に話を伺った。

鈴木 樹脂製フレーム

——まずはラピュタASRSについて教えて下さい。

鈴木 樹脂製フレームで構成された荷物を収納するための立体倉庫、商品などを入れる専用コンテナ、コンテナを運搬する小型の薄型ロボット、ロボットの上下移動を可能にするエレベーターなどで構成される自在型自動倉庫システムである。アンカーレスでねじを使わずブロックのように、L字形やコの字形などお客様の運用に合わせて自由な形状の立体倉庫を構築でき、既存倉庫、新規倉庫を問わず様々な倉庫や工場に導入できることが特徴で、アンカーレスだが優れた制振性能も備えている。

——採用状況は。

鈴木 2023年8月の発売後、導入予定も含めて現在までに16社で採用されており、出版取次大手である日本出版販売の物流拠点「NPORT新座」（埼玉県新座市）、模型やプラモデルなどを扱うホビーリンク・ジャパン（栃木県佐野市）、アルプス物流（千葉県成田市）で稼働を開始し、コンタクトレンズの通販などを手がけるRise UPの物流センターなど幅広い業種で採用予定である。電子デバイス関連ではジェーイーエルの尾道工場（広島県尾道市）での採用が決まっている。26年から稼働を開始予定で、半導体ウエハー搬送ロボットの組立に必要な多くの部品をラピュタASRSからピッキングする体制になると聞いている。

——評価を得ているポイントは。

鈴木 システムの柔軟性が高いため、導入後の規模の拡大・縮小や、需要動向や事業成長などに応じた移設などを最小限のコストで行え、変わった倉庫形状への対応や、防火扉をまたぐような設置も容易に行える。そして保管効率も高く、生産性の向上にも貢献する。サブスクリプションプランもあり、初期費用を抑制したい方や固定資産の保有を避けたいお客様のニーズにも柔軟に対応できる（一定期間内におけるプランの解約は不可。工事費や顧客型の既存システム改修費などはプランに含まれない）。

——そのほかの特徴や開発面で取り組まれていることはありますか。

鈴木 当社は、独自のクラウドロボティクスプラットフォーム「rapyuta.io」（ラピュタアイオー）を開発するなど、ソフトウエアの知見も豊富で、こうしたソフト技術を活用することでWMS（倉庫管理システム）をはじめとした様々なシステムとの連携もスムーズに行える。24年にはパナソニック コネクトと業務提携し、パナソニック コネクトのロボット関連技術とラピュタASRSを連携させることで、物流現場におけるピッキング作業の効率化などに取り組んでいる。

アルプス物流の拠点で稼働を開始したラピュタASRS

——事業体制も強化されている。

鈴木 事業の拡大に合わせて人員も拡充しており、そのなかでラピュタASRSに関連する体制も強化している。また、24年末には米シカゴ近郊のイリノイ州シャンバーグにラピュタASRSのデモ用ショールームを開設し、これまで日本でのみ体験可能だったシステムのデモなどを米国でも行えるようにした。9月10～12日に東京ビッグサイトで開催される「国際物流総合展 2025」などへの出展も予定しており、こうした場を通じてラピュタASRSの機能をぜひ体感していただきたい。

——ラピュタASRSの今後の方針についてお聞かせ下さい。

鈴木 まずは採用いただいたお客様への対応をしっかりと進めていく。近年、倉庫の自動化に関するロボティクス製品が増えており、競争も激しくなっているが、物流需要の拡大や人手不足などにより、当社への引き合いも増えており、ラピュタASRSの持つ特徴をさらに訴求していきながら100億円規模の受注獲得を目指していく。

（聞き手・副編集長 浮島哲志）